

主任コラム12月号

主任 澤井 良子

暖かい日が続いたかと思えば、急に冷え込んだりと子ども達も体調を崩してしまう子が増えてきました。体調面に気をつけながら保育してきたいと思います。

11月に秋の遠足がありました。2歳児は小岐須公園、3歳児は小社公園にC-BUSに乗って出掛け、4歳児は名古屋市水族館、5歳児は、保育の中で実験などを行っていることから名古屋市科学館に出掛け、不思議（STEM）を体験してきました。5歳児は、9月のお泊り保育の際に近くのドラッグストアへグループで必要なものを買に行ったことから、今回遠足に行くにあたり、各自保護者の方に300円をもらいC-BUSに乗ってF1 マートにおやつを買に行きました。

6人のグループに分け、1週間かけて午後からお買い物に行きました。その前に100円玉がいくつで1000円になるのか…などのお金のカードを用いたり、どれだけの数字で足せば、400円になるのかな…と電卓をたたいて考えたりと、保育の中で友達や保育士と数字や電卓を楽しんでから、買い物に行きました。お店では、買いたいお菓子の値段を見ながらおやつを3つ選び「あれ？これって300円？」とお友だちと計算機を見せ合ったりしながら、300円を超えたり越えなかったりを子ども達同士で考え、また、欲しいお菓子を3つ買うには、これで全部買えるか？どれと交換したらいいのかななども考えていました。また、子ども同士で計算機の使い方などを教え合う姿も見られました。グループによって選び方の個性も出ており、先にお買い物に行った子から話を聞いて子ども同士が情報共有していることもわかりました。お会計では、お店の人とのやり取りでなく、自動精算だったのが残念でしたが、レシートとおつりがあっているか自分達で確認する体験ができました。

一人一人が計算機やお金を使ってのお買い物は、年長児には少し難しかったかもしれませんが、子ども達がバスに乗り、地域のお店に行き、遠足に持っていくおやつを自分で選び（中には1時間選ぶ子もいました。）色々な地域の方の仕事を知り、人と関わるといことは大切ではないかなと思いました。子ども達自身も楽しんでいて、年中児の中にも「行きたい」と憧れる声もありました。そして、以前このコラムでもお伝えした9月に年長児対象に来て頂いた「鈴鹿亀山消費生活センター」の方のお買い物ごっこがきっかけでしたが、保育所保育指針の中に【数量や文字などに関しては、日常生活の中で子ども自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること】とあります。教え込むのではなく環境を通して子ども達が自ら、「文字を書きたい」「数字を数えたい」となるような保育をしていかなければならないと思いました。

